

## 令和2年度函館市福祉のまちづくり推進委員会 会議概要

### 1 日時

令和3年2月4日（木） 午後6時00分～午後7時30分

### 2 場所

函館市役所本庁舎 8階大会議室

### 3 報告事項

- (1) 函館市福祉のまちづくり条例整備基準適合状況について
- (2) 函館市福祉のまちづくり施設整備費補助金交付実績について

### 4 協議事項

- (1) 第4次函館市地域福祉計画における関連事業実施状況について
- (2) 福祉拠点の整備について
- (3) その他

### 5 会議資料

- (1) 資料1 令和元年度函館市福祉のまちづくり条例整備基準への適合状況
- (2) 資料2 函館市福祉のまちづくり施設整備費補助金交付実績
- (3) 資料3 第4次函館市地域福祉計画における関連事業実施状況について
- (4) 資料4 福祉拠点のイメージ
- (5) 資料5 福祉拠点の整備について

#### 【参考資料】

- (6) 市民の生活状況に関する調査の結果 概要（ひきこもりに関する実態調査）

### 6 出席委員（13名）

池田委員，勝又委員，小杉委員，島委員，相馬委員，高田委員，富樫委員，  
中村委員，野村委員，畑委員，水沢委員，見延委員，宮川委員

### 7 欠席委員（4名）

石田委員，磯貝委員，齋藤委員，佐々木委員

### 8 傍聴

0名

## 9 報道

1 社（函館新聞社）

## 10 事務局職員

大泉保健福祉部長，本吉保健福祉部次長

金指地域福祉課長，高橋地域包括ケア推進課福祉拠点整備担当課長，

地域福祉課 伊藤主査，畠山主査，水野主任

地域包括ケア推進課福祉拠点整備担当 糸数主査

## 11 会議要旨

- (1) 開会
- (2) 保健福祉部長挨拶
- (3) 新任委員および事務局職員の紹介について
- (4) 副委員長の選出について
- (5) 報告事項
- (6) 協議事項
- (7) 閉会

## 12 会議録

- (1) 開会

**（事務局 伊藤地域福祉課主査）**

ただいまから，令和2年度函館市福祉のまちづくり推進委員会を開催する。まず，保健福祉部長よりあいさつ申し上げます。

- (2) 保健福祉部長挨拶

**（事務局 保健福祉部長）**

ー保健福祉部長 挨拶ー

- (3) 新任委員および事務局職員の紹介について

**（事務局 伊藤地域福祉課主査）**

次に，新任の委員を紹介する。（新任委員紹介）

また事務局員にも異動があったため紹介する。（事務局員紹介）

本日は，ほかに3名の委員が欠席となっている。また，新型コロナウイルス感染症対策として入室時に検温および手指の消毒にご協力いただいたが，会議開催中，換気のため窓を開放することがあることをご了承願いたい。

資料は事前配布しているが，地域福祉計画書も本日持参するようお願いしている

が、もし不備等あれば申し出いただきたい。

それでは、この会議は公開とし、19時30分頃の終了を予定している。ここからの会議の進行は、委員長を議長として進めていく。

#### (4) 副委員長の選出について

(池田委員長)

では、会議を始めたいと思う。新型コロナウイルスの関係で色々忙しい状況となっているが、事務局から説明があったとおり、副委員長であった安藤委員から佐々木委員に変更があり新しい副委員長の選出が必要である。規約では委員の互選で選出することとなっているが、何か意見はあるか？(特になし)

なければ事務局からの(案)を聞きたいがそれで良いか？(異議なし)

(事務局 地域福祉課長)

事務局(案)としては、中村委員を推薦する。

(池田委員長)

事務局から、中村委員の推薦があったが委員の皆さんよろしいか？(異議なし)

では、中村委員に今後の副委員長をお願いする。中村委員から一言お願いしたい。

(中村委員)

民生児童委員連合会の中村です。今後、福祉の様々なことが議題になると思うが、一生懸命勉強して皆さんと一緒に良い案を出していきたい。よろしくお願いしたい。

#### (5) 報告事項

(池田委員長)

それでは、議題に沿って進めていく。報告事項(1)函館市福祉のまちづくり条例制基準適合状況について、事務局から報告願いたい。

(事務局 地域福祉課長)

—状況報告—

(池田委員長)

事務局からの報告について、意見等はあるか？(特になし)

では、報告事項(2)函館市福祉のまちづくり施設整備費補助金交付実績について、事務局から報告願いたい。

**(事務局 地域福祉課長)**

—状況報告—

**(池田委員長)**

事務局からの報告について、意見等あるか？（特になし）

(6) 協議事項

**(池田委員長)**

それでは、協議事項に入るが、まず協議事項（1）第4次函館市地域福祉計画における関連事業実施状況について事務局から説明願いたい。

**(事務局 地域福祉課長)**

—資料説明—

**(池田委員長)**

第4次函館市地域福祉計画は、「みんなで創る地域共生社会」を基本理念に策定委員会で議論しながら2019年度からの10年間を計画期間として策定したが、この委員会では計画の進捗状況を管理することとしている。

事務局からの説明で何か意見・質問等あるか？なければ自分から、聞きたいが、基本施策2-4生活困窮者への支援に関し、相談支援や住居確保給付金が前年度から大幅に増えているがこれは新型コロナウイルスの影響なのか？

**(事務局 地域包括ケア推進課福祉拠点整備担当課長)**

平成27年度に生活困窮者自立支援法ができ、新型コロナウイルスの関係で個人向けの支援として二つの施策がある。一つが社会福祉協議会で貸し付けしている生活福祉資金の緊急小口貸付、もう一つが住居確保給付金であり、これは求職活動の機会の確保、住居の確保が目的で、基本は3か月間の家賃補助、2回の延長が可能であるが、コロナの影響により求職活動などが長引いている方にはさらに1回の延長が可能となっており、最大12ヶ月の家賃補助をしている。件数の増加については、まさにコロナの影響により増加している状況である。

**(池田委員長)**

この数字は11月現在なので今後さらに増えていくものと思う。

**(野村委員)**

資料への記載はないが、自殺防止対策の関係でコロナの影響で自殺が急増しているというような報道もある。市では居場所づくりとして「ヨリドコロ」という事業があり所管は障がい保健福祉課だと思うが、現在の状況や今後の見通しなどお聞きしたい。

**(事務局 保健福祉部長)**

自殺防止対策として「ヨリドコロ」という気軽に立ち寄れる居場所づくり事業を以前から行っているが、自殺の原因は多岐にわたり、後ほど報告するが今年度市ではひきこもりの調査も行っており、このようなことも自殺の要因と絡んでくるものだと思っている。今後「ヨリドコロ」がどのように活用されるのかも含めて注視し、このような場で報告していきたいと考えている。

また、自殺防止対策については、新型コロナウイルスの影響と自殺者の増加の関連性、性別、年代などを含め分析し、しっかりと関係機関と情報共有するほか皆様からのご意見をお聞きしながら進めてまいりたい。

**(富樫委員)**

基本施策2-4生活困窮世帯への支援について、住居確保給付金の話しが出たが、生活困窮者の定義を聞きたい。

**(事務局 地域包括ケア推進課福祉拠点整備担当課長)**

生活保護に関しては世帯収入などの基準があるので、生活困窮者とはそこまでのかないまでの困窮ということになるかと思う。後ほどの福祉拠点の話ともつながるが、生活困窮者の支援については、単純な基準でどうかではなく生活全般の様々な困りごとに対して関係窓口へとつないでいくなどの対応が重要であり、住宅に関しても先ほどの住居確保給付金のほか、高齢者や障がい者などに対応する制度があるのでそれぞれの条件にあった制度を活用していただきたい。

**(池田委員長)**

基本施策3-3積極的な情報発信にワークショップの開催とあるが、地域福祉への意識を若い世代に浸透させるため、自分も協力し高校生、大学生を中心に開催を検討してきたが、新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得なくなった。

何とか若い世代が地域に愛着を持てるようにすることが必要と考えている。このような企画をさらに広げて様々な学生を取り込んでいくことが計画の基本理念を浸透させていくことだと思うので今後も継続して企画していただきたい。

では、次に協議事項（２）福祉拠点の整備について、事務局から説明をお願いしたい。

**（事務局 保健福祉部長）**

—資料説明—

（福祉拠点および市民の生活状況に関する調査結果概要について）

**（池田委員長）**

今後、高齢化、8050問題など地域社会にとって大きな問題になってくと思うが、意見・質問等あるか？

**（小杉委員）**

地域包括支援センターが福祉拠点としての機能も果たすとのことで、センターが気軽に立ち寄れる場所でありたいといつも思っている。

場所によっては立地的にまだ認知度が低いところもあるが、どんなところであれば市民が立ち寄りやすいのか、市の担当者と連携しながら検討している。

**（池田委員長）**

やはり立地場所によっては、行きづらい部分もあるかと思う。

**（小杉委員）**

そういう点も含めて本日は皆さんから意見をいただきたい。

**（池田委員長）**

今回の福祉拠点は、アウトリーチも行うのか？

**（事務局 保健福祉部長）**

現在の地域包括支援センターでは、窓口等で話を聞くことより、相談を受け、実際に自宅を訪問したりする件数が多くなっている状況があることから、新たに配置する3名についてもアウトリーチが重要となる。

相談したい人が福祉拠点を訪れることも大事だが、民生委員や町会など地域で活躍されている方が、福祉拠点に立ち寄り、支援が必要な人、あるいは社会資源の情報などを共有することでアウトリーチや相談につながることになり、そういった視点からも気軽に立ち寄れる工夫が必要になってくることから、皆様からのご意見をいただきたい。

### (中村委員)

自分は第3民児協に所属していて、地域は西部地区になるが、月に1回定例会を開催している。そのときは必ず担当の地域包括支援センターから職員が参加し話しの内容を最後まで聞いてくれている。

仲間内では「困ったときは包括へ」を合い言葉にしている、何か困ったことが起きたら一番情報を持っている包括へ相談すると道が開けると考えている。

これから包括支援センターに高齢者ばかりでなく障がい者、母子を含め困った人の窓口ができること民生委員にとっては、ものすごく心強いことだと思っているので、できるだけ早く立ち上げていただきたい。そのときには是非民生委員も協力したいと考えている。

最近も、担当地域で連絡がとれなくなった高齢者がいて、やはりそのときも情報を一番持っている包括と連携した。

そのほか、先ほどのひきこもりの調査結果について個人的な感想だが、高齢者がひきこもりに陥るタイミングは退職時期が多いと感じているので、福祉拠点がそのような方が集まれる場所になってくれるとありがたい。今回の調査は民生委員にも届いているが、「ひきこもり支援のあり方」という設問で「支援窓口の周知・PR」という回答が多かったが、今後は誰にでも困ったら包括に行った方が良いと助言できるので、民生委員としても周知に協力していきたい。

### (池田委員長)

民生委員のように地域で活躍されている方と福祉拠点が有機的につながってくると地域も良い形になっていくと思う。

学生などの若い人も一緒に地域を考えていくことが地域を明るくすることにつながる。最近では隣近所とのつながりが薄れているので町内会などを含め、結びつきを強くすることが大事だと考えている。

### (畑委員)

自分も包括支援センターには大変お世話になっているが、そのような場所に気軽に立ち寄れることも大事だが、本当に困っている人が果たして相談にいけるのかと疑問に思った。

自分は町会活動や民生委員も担っているが、包括支援センターと連携しながら見守りをしていた高齢者が亡くなってしまった。福祉拠点に立ち寄れる方はまだ大丈夫な方だと思う。立ち寄れない方をどのように支援するかが難しい。やはり地域で連携して見守りや声がけをこまめにしていくことが大事だと考えている。

**(池田委員長)**

今後は一つの組織だけではなく町会，民生委員，包括支援センターなどが有機的につながって見守り体制を築くことが大事。それを続けると計画の理念や，関連事業の数値なども良い結果になると考えている。

**(宮川委員)**

自分は老人クラブで活動している。今は色々な行事が新型コロナウイルスの影響でできなくなっている。そのような中で高齢者がひきこもらないように体操の勧奨なども行っているが包括支援センターは場所の提供など様々な協力をしてきている。そのほかセンターとは，単身高齢者の見守りなどでも連携しているが，高齢夫婦世帯で認知症も絡むと大変になったりするので包括支援センターには感謝の気持ちが大きい。

**(野村委員)**

自分はひきこもりの関係の支援を行っているが，福祉拠点ではひきこもりの相談支援も考えてくれているので非常に心強く思っている。今後は資料にも書かれているが社会資源連携業務などで協力していきたい。

新たな福祉拠点を考える中で今後一番の課題は人材確保だと考えている。有資格者10名のほか，ソーシャルワーカー的な人材も必要になってくる。このような人材は委託先だけで確保するのは難しいと思うので，行政と一体となった取り組みをお願いしたい。人材の確保ができないと形があっても中身が伴わないことも考えられるのでよろしくをお願いしたい。

**(池田委員長)**

時間となったが，様々な意見をいただいた。計画期間は10年なので今後も進捗管理などで皆さんから意見をいただきたい。事務局からその他の議題はあるか？

**(事務局地域福祉課長)**

今回は特に議題はありません。

**(池田委員長)**

では，今回の会議はこれで終了とする。ありがとうございました。